

給食だより 1月

令和8年1月13日
江戸川区立上小岩小学校
校長 宮本 知司
栄養士 高橋 真樹子

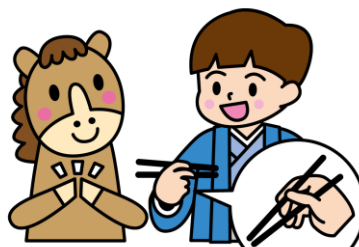
明けましておめでとうございます。新しい年を迎え三学期が始まりました。気持ちを新たに、今年も給食室一同、子ども達が楽しみになるような美味しく安全な給食提供を行います。

1月24日～30日は全国学校給食週間です。現代の給食は栄養バランスが整っており、献立内容も豊富なため食を通して様々な文化や歴史について知ることができます。給食を食べることができるのは決して当たり前のことではありません。全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食について改めて考える機会にしてほしいです。

今年(とし)はうま年(とし)!



うまのように野菜を
たっぷり食べよう!



箸(はし)をうま(うま)く使いこなして
きれいに食べよう!



よく味わってうま(うま)味
を感じよう!

お年玉(としだま)はもち(もち)だった!?



お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多かったのではないのでしょうか。さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様(としがみさま)(年神様)」にお供えた「もち」を、歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂(たましい)」を意味します。



1月11日は鏡開き



鏡(かがみ)もちを小さく割ってお汁粉などに入れ、無病息災を願って食べる行事です。もちを小さくするのに、包丁(はちょう)など刃物を使うのは武士の「切腹(せっぽく)」を連想させるため縁起が悪いとされ、木づちや手で割ります。また、「割る」ではなく「開く」という縁起の良い言葉が使われます。





1/24~1/30 は
ぜん こく がっ こう きゅうしょくしゅうかん
「全国学校給食週間」です

に ほん がっ こう きゅうしょく

日本の学校給食のあゆみ

がっ こう きゅうしょく はじ

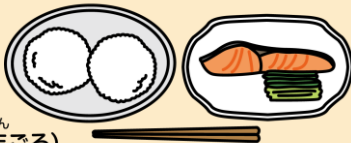
学校給食の始まり



明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大誓寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなっていました。

おにぎり

や ざかな
焼き魚
つけもの
漬物
めいじ
(明治22年ごろ)



ごしき

五色ごはん
えいよう
栄養みそ汁
たいしやう
(大正12年ごろ)



し えん ぶつ し

がっ こう きゅうしょく さい かい

支援物資による学校給食の再開



戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

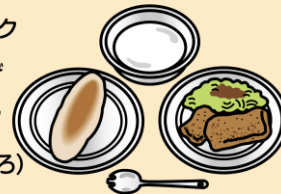
ミルク

トマトシチュー
しょうわ
(昭和22年ごろ)



コッペパン・ミルク

クジラの竜田揚げ
ぜ
せん切りキャベツ
しょうわ
(昭和25~30年ごろ)



ゆた こん だて ない よう

バラエティー豊かな献立内容に



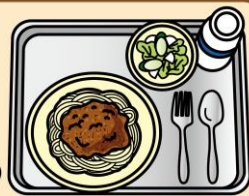
昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実していきました。

ミートスパゲッティ

牛乳

フレンチサラダ

(昭和40~50年ごろ)



カレーライス

牛乳・塩もみ

ゆで卵

(昭和51年ごろ)



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが飢えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活が続けることができるように、学校給食は「教材」としての役割も担っています。